

WHO ファクトシート

フランベジア

Yaws

2017年3月

重要な事実

- ・フランベジアは、梅毒スピロヘータの亜種であるフランベジアトレポネーマの感染により引き起こされる慢性の外観の損傷や衰弱を伴う子どもの感染症である。
- ・この疾病は、WHOとユニセフにより1950年代に根絶することを最初に目指した疾病のひとつである。WHOはフランベジア根絶の世界目標を2012年に更新した。
- ・この疾病は、皮膚、骨及び軟骨に障害をもたらす。現在のところ人間だけが罹る疾病で、人から人へ感染すると考えられている。
- ・フランベジアは、アジトロマイシンという抗生物質の経口1回投与で治癒することができる。
- ・フランベジアが現在流行している国は13カ国あるが、WHOに定期的にデータを報告しているのはその内の8カ国だけである。
- ・以前にフランベジアの流行があった国は73カ国あり、この疾病の現在の状況について確認が必要である。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Yaws ファクトシート原文は [こちら](#)